

2011 年 5 月 10 日

(これは、ロンドンにて 2011 年 5 月 4 日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードは、5 月 4 日付で、2011 年度第 1 四半期に関する中間経営ステートメント (IMS) を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者であるピーター・サンズは、次のように述べています。

「2011 年、スタンダードチャータードは、コンシューマーバンキング・ホールセールバンキング両部門の好調な成長基調によって、すばらしいスタートを切ることができました。当行は、厳格な事業戦略の実行を通じて、強固な事業基盤によってダイナミックな市場で大変優位なポジションを維持しています。」

当行グループは、今年度第 1 四半期において前年同期比で二桁の収益成長を達成し、両部門とも好調な成長基調を維持、力強いスタートを切ることができました。コンシューマーバンキング部門は戦略的なリポジショニングを継続しています。前年度の業績を足がかりに、グループの利益に対する貢献度は前年同期を上回っています。

コストも引き続き厳格に管理した結果、第 1 四半期末現在の従業員数は前年度末の水準をやや下回りました。費用支出率は前年度下半期とほぼ同水準となりました。費用は前年同期比では利益を上回るペースで増加していますが、前年度通年の水準からは大幅に改善しています。

グループ業績については、高い流動性と潤沢な資本力を保持し、大変好調に推移しています。預金および融資残高は、2010 年度通年よりゆるやかなペースではあるものの、引き続き増加傾向にあります。同四半期のリスク加重資産 (RWA) の増加率については、引き続き管理を徹底しています。

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門は、前年度の収益成長基調を足がかりに、前年同期比で二桁台前半の収益成長を達成しました。

バランスシート収支は前年度末から安定した伸びを示しています。同四半期は負債サイドの利鞘が回復する一方、資産サイドは前年度下半期よりもわずかながら下げ圧力が強まりました。

収益源は多岐にわたり、特に香港およびシンガポールでウェルスマネジメント事業が好調でした。預金量の増加を反映して預金収益が大きく伸びました。個人向け住宅ローン事業の収益については、利幅の下げ圧力により好調な増加幅が相殺され、前年同期をやや下回るかたちとなりました。中小企業向け (SME) 融資事業の業績も好調で、一方クレジットカード事業と個人向け融資事業も、無担保融資事業

を選択的に強化したため収益が増加しました。

厳格なコスト管理を徹底した結果、コンシューマーバンキング部門における同四半期の費用支出率は前年度下半期を下回りました。

また、リスク管理への慎重なアプローチとマクロ経済の回復により、同部門におけるアセット・クオリティ（資産の質）は前年度末から引き続き向上しています。融資減損額は、前年度下半期のランレートを下回りました。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門は、顧客からの収益が前年度上半期のランレートを上回り、2011 年も力強いスタートを切ることができました。第 1 四半期の自己取引による収益は、前年同期比で二桁増と大変好調でした。顧客からの収益は引き続き同部門総収益の 8 割以上を占めています。

キャッシュマネジメント、貿易金融およびそれに関連する為替ヘッジ業務のコマーシャルバンキング事業は、引き続きホールセールバンキング部門の軸であり大きな部分を占めています。キャッシュマネジメントの利幅が前年度末よりやや改善する一方、貿易金融事業では競争激化による利幅への圧力が強まっています。両事業とも取引量は前年度末以降増加したことから、前年同期比でトランザクションバンキング事業収益の二桁成長につながりました。

同四半期のコーポレートファイナンス事業は、市況により契約数が前年同期より減少したものの、好調に推移しました。大型案件受注も堅調を維持しています。

ファイナンシャルマーケット事業における顧客からの収益は、コモディティ、キャピタルマーケット、為替事業を中心に大きく伸び、前年同期比で二桁成長を達成しました。

ホールセールバンキング部門の費用支出率は、従業員数の増加および投資コストの影響から前年度下半期を僅かに上回りました。

世界経済が不透明な中、同四半期に実質的な不良債権は発生せず、法人向け融資に関するアセット・クオリティは引き続き順調に推移しています。

グループ関連

当行グループは潤沢な資本と高い流動性を保持し、預貸率(A/D 率)は堅調に推移しています。預金残高も増加傾向が続き、インターバンク市場においては高い資金放出のポジションを維持しています。

総じて、今年度におけるグループ業績は、バランスシート収支の拡大と高い収益水準によって力強いスタートを切ることができました。資本・流動性に関する当行グループのポジションも引き続き大変良好

なものとなっています。次期業績予測については、6月の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Piotr Zajac, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 6454

Ashia Razzaq, Head of Investor Relations, Asia +852 2820 3958

Tim Baxter, Head of Corporate Communications +44 (0)20 7885 5573

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご確認ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。